

## 第2回平成23年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

平成22年7月2日（金） 13時30分～

委員長 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴券の裏をごらんください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださることをお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。会議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条2項の規定にあります、委員の半数以上の出席の要件を満たしておりますので、ただいまより第2回平成23年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回ご審議いただく内容は、議題1「平成23年度使用小学校用教科用図書について」です。

それでは、次に、事務局より、本日の資料について説明させます。

事務局 それでは、まず始めに、第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました資料について説明いたします。

始めに、県より報告されました「小学校用教科用図書調査研究の結果」です。これは、県の選定審議会のもとに置かれた調査委員会が、調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして、県教育委員会から本市教育委員会へと送付されましたものでございます。

次に、本審議委員会のもとに置かれました調査員によっ

て作成されました「小学校用『調査資料』」です。これは県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し、十分な経験と知識を有するもののうちから、本市教育委員会教育長が調査員として各種目ごと3名から6名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。

なお、今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましても、調査資料の最終ページに記載してございます。

続きまして、本審議委員会までの間にごらんいただいた資料として2点ございます。1点目は、平成23年度使用教科用図書調査書です。これは各小学校長が自校の教師に調査研究させたもので、各小学校長の責任のもと、県の調査研究の観点に沿って調査研究したものを簿冊としたものです。

2点目は、平成23年度使用教科用図書意見書です。これは、保護者及び市民向けに各小学校及び市役所において教科書展示会を開催した際にいただいた意見、感想でございます。なお、サイドテーブルには、平成23年度、藤沢市で使用が予定される小学校用教科書見本本が展示してあります。

以上で資料の説明を終わります。

委員長            ありがとうございました。

それでは、説明いただきました資料等につきましても質問はございますか。

各委員            なし。

委員長            ないようですので、議事に入ります。

本日の次第をごらんください。まず始めに、藤沢市審議

会等の会議の公開に関する要綱に基づきまして、議事録署名委員を指名いたします。

私のほかに飯島委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

飯島委員 はい。

委員長 では、飯島委員、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより議題1「平成23年度使用小学校用教科用図書について」審議してまいります。

今年度は、学習指導要領の改訂に伴い、平成23年度使用小学校教科用図書の採択がえの年に当たっています。調査員がまとめました調査資料及び各小学校の調査書をまとめ、また、県より出されました小学校用教科用図書調査研究の結果等をもとに、各種目ごと審議を進めていきたいと思っております。

これから審議してまいりたいと思いますが、審議の進行について何かご意見はございますか。清水委員。

清水良委員 各学校で調査研究をした折は、神奈川県調査の観点に沿って9項目行いました。かなり細かい観点で研究をしてきましたけれども、市のほうでおまとめいただいた資料につきましては、9つの観点をもとに、大きく3つの項目について整理がされております。できましたら、大まじめの3項目を意識していただきながら、それぞれのご発言をいただいたらいかがかなと思うのですが、いかがでしょうか。

委員長 市の調査員による3つの観点、1つ目は、編集の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、教科・種目別の観

点、2つ目は、構成・分量・装丁、表記・表現、3つ目は、本市の児童の実態や地域等の特性との関連をもとに進めてはどうかというご意見ですが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、3点を踏まえて各委員からご意見をいただきたいと思います。

では、国語から始めます。ご意見をお願いします。升委員。

升委員 私は、編集の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、教科・種目の観点を意識してお話しさせていただきます。

国語科の目標は、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることと、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるのですが、これから楽しく学習していかうとする1年生の入門期は、どの教科もそれぞれに興味や関心を持たせるような工夫が見られ、とてもよいと感じました。思考力や想像力及び言語感覚の「読む」では、何をどのように読めばよいのか、「話す」、「聞く」、「書く」では、学習の進め方、学習の見通しがわかり、具体的であると感じました。各教科書、いずれも工夫があり、よいと感じました。

全体的には、教育出版は、学習の過程がわかり、学び方が提示してあり、どのように、何を学習するのか、学習の展開に工夫が見られてよいと感じました。

光村図書出版は、その学年や他学年の教材が系統的につながっていることがよくわかりました。

文学教材や説明教材においても、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版、それぞれに思考力や想像力をかき立てる、関心を引く教材を配列していて、よいと感じました。

全体として、光村図書出版の1年生では、「おおきなかぶ」、「たぬきの糸車」、2年生では、「スイミー」、「お手紙」、「スーホの白い馬」、3年生では、「ちいちゃんのかげおくり」、「三年とうげ」、「モチモチの木」、4年生では「ごんぎつね」、「一つの花」、5年生では「大造じいさんとガン」、「わらぐつの中の神様」、6年生では「やまなし」といった作品が、各学年の発達段階に応じて配列されており、心情面においても子どもたちに感動を与えることができるように感じました。

説明文においても、「どうぶつの赤ちゃん」、「たんぽぽのちえ」、「ありの行列」、「新聞を読もう」「平和のとりでを築く」など、つながりのある単元といたしますか、積み重ねていく学習が子どもたちの興味、関心を持たせ、筆者の考えを読み取る身近な教材を設定し、新たな発想や思考を創造する原動力となっていくものと感じました。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。佐藤委員、お願いします。

佐藤委員           すべて検定を通っている教科書ですので、甲乙つけがたい感じがいたしました。習得と定着、そして、活用という着眼点に主眼を置いてみましたところ、3年生以上に説明文を2つ並べた単元を配置してあることや、「読むこと」の学習を「書くこと」に生かすように単元を配列してある構成になっている光村図書出版が効果的なように感じ

ました。

また、子どもたちの考えを促すように、「あなたなら」という問いが教科書の至るところに配してあって、自分の考えを持つ習慣ができるように工夫されていると感じました。

委員長           ほかにいかがでしょうか。西新屋委員、お願いします。

西新屋委員   私は、教科書を、構成・分量・装丁を中心に見ました。各者ともに、国語科の学習内容である、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域の教材と、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の教材とが系統的に配列されていると思いました。

三省堂は、2年生以上は、「学びを広げる」として、言葉を中心にした教材を分冊にしています。2冊の教科書を用意して授業するのは、児童にとっては大変なようにも思いますが、言葉の習得、語彙をふやす指導に、この教科書は大変役立つように感じました。特に「言葉の図鑑」では、言葉を写真や絵を通して見るということで、言葉が広がり、言葉に興味を持つ工夫がされています。

東京書籍の教科書は、軽くて、持った感触が大変やわらかく、しなやかでした。最初に表紙を開くと、見開きのページに目がとまります。季節感のある詩と素敵な挿絵にとってもひかれます。そこを見ているだけ、読むだけでいろいろ思ったり、考えたり、感じたりすることができます。児童は国語が好きになりそうです。どのページの文字もくっきりとしていて、大変読みやすいです。物語文や説明文に使われている挿絵も文字を邪魔することなく、控え目に使われているところが好感を持ってました。

学校図書は写真がよいと思いました。文章の読み取りの

手助けになっています。2年生の下の教科書にある「ゴムでうごくおもちゃのしくみ」は、本文を読みながら、写真を見ながら、だれもおもちゃを簡単につくれる気持ちになります。作ってみたいくなります。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。入澤委員、よろしくお願ひします。

入澤委員       私も構成とか、分量とか、表記とかというところになるのかなというふうに思うのですけれども、光村図書出版の教科書が、5・6年の教科書が上下巻ではなく、1冊にまとまっているというのがとても印象的でして、教材を入れかえて扱いたいときですとか、あるいは以前学習したことを振り返りたいというときに、1冊になっていたほうが便利なのかなというふうに思いました。最大のデメリットとしては重くなるということがあるのですけれども、5・6年ということで、高学年に限ってそういうふうになっているというような配慮もされているかなと思いました。

それから、東京書籍と光村図書出版なのですが、編集の趣旨の中で、特別支援教育への配慮ということがうたわれていまして、それを意図した工夫ですね、文字の大きさですとか、色使いですとか、その辺が細部まで配慮が見られて、その結果として非常にすっきりして見やすいなという印象を受けました。

それから、西新屋委員のお話にもあったのですけれども、三省堂の教科書が、「小学校の国語」と「学びを広げる」という2冊構成になっているということで、「学びを広げる」という中に、言葉の教科書というふうに着られているのですが、発展的な教材がいろいろ入っていて、非常に

幅広い教材を取り上げているなということを感じました。ただ、使いこなすのがなかなか研究が必要なのではないかなという印象も受けました。

以上です。

委員長           ほかにございますか。古澤委員。

古澤委員       私は、それぞれ、委員の方、おっしゃったと思うのですけれども、新しい学習指導要領の目的が達成されるように、各者、工夫が感じられるなというのが全般的な印象です。私のほうは、児童の実態、また、発達段階というのを少し気をつけて見てみました。その中で1つ、読書活動へつなげるという部分ですね。全国的に言われているのだと思うのですけれども、本市の小学生の年代に、読書に向けて意欲を持たせるようなことが期待されるものというふうなことで、三省堂にも光村図書出版にもあるのですけれども、野口聡一さんの、三省堂では「宇宙時代を生きる」という文、光村図書出版のほうでは「宇宙飛行士ーぼくがいだいた夢」というような、近くの、なじみのある方の文章を取り上げていただいているという部分は期待ができるな、また、読んでみたいという気持ちを持たせることができるのではないかなというふうに思いました。

もう一つ、題材というところでは、光村図書出版の4年生の「ウナギのなぞを追って」という文章ですね、ウナギのなぞという部分を、最近、いろいろ報道の中でも取り上げられて、ウナギの生態というのが少しずつわかってきたぞという部分が、海がある藤沢ということも含めて、すごく印象に残りました。そういうところから、読み進める、また、自分で進んで読むという意欲づけになるのではないかなというふうに感じたところです。



以上です。

委員長           ほかにございますか。瀧澤委員。

瀧澤委員       本市の児童の実態もそうなのですが、全国的に子どもの読書離れの傾向が進んでいます。その背景には、情報メディアの著しい発達、普及による、子どもたちの生活環境の大きな変化が見られると思います。読書は、テレビのように一方的に情報を受入れるのではなく、自分で考えて、言葉やすき間を埋め、本の世界を心の中に描かなければなりません。言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かなものにしていきます。変化の激しいこれからの社会の中では、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する力や、豊かな人間性などの生きる力が必要です。子どもころから読書習慣の形成は、生きる力を育てていく有効な手段の一つと考えます。各者とも読書指導に工夫が見られたと思いますが、その中で東京書籍は、図書館利用や読書活動を促す資料が、学年始め、夏休み、冬休み前と年間を通じて配置されていました。

三省堂は、成長段階に合わせた心に残る作品をバランスよく取り入れ、「わたしの本棚」として紹介しています。また、「図書館へ行こう」という教材を2年生以上に設け、学校図書館を利用した読書について取り上げていました。

光村図書出版では、幼児期の読み聞かせから、自分で読むことへ移行するために、1年の上巻で「おはなし よんで」が設けられました。また、図書リストとしては、「本は友達」、「この本を読もう」というページで、学習と関連させた図書を取り上げていました。

以上です。

委員長           ほかにご意見ございますでしょうか。落合委員。

落合委員       私も、子どもの授業風景などを見させていただく中で幾つか感じたことを申し上げたいと思います。

国語では、新しく伝統的な言語文化、国語の特質に関する事項等が新しい教育課程の中で大きく取り上げられているということが話題となっていました。ちょうど県の調査書の13ページのところにあるのですが、3・4年生はとも文字に関心がありまして、短歌、俳句、ことわざ、慣用句、故事の成語熟語などのこういう扱い、非常に熱心に楽しんで、また、自作したりして、一生懸命やるのですね。そういう意味で、ここに出ている出典ページ数ですか、回数ということではないのですが、やはり短歌や俳句だけでなく、ことわざとか慣用句など、今、テレビでやっているせいかもしれませんが、子どもは大変興味、関心を持っているので、こうしたことから、子どもたちに言語文化に親しんでいくというバランスから言うと、このところが私自身は多くなっている、教育出版や光村図書出版の構成には、実態に合わせて興味、関心があるのかなと思いました。

また、1・2年の句読点の打ち方ですとか、基本的な語句のまとめ、こうしたものに多くのページを割いていただくということでは、常々、日記指導や、毎日のことを文章化するという、子どもたちの実践を見ていると、このことを多く扱っている光村図書出版や三省堂のこうした取り扱い方が、本校や今までの経験では興味、関心を呼ぶのかなというふうに感じました。

委員長           ほかにご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、国語を終えて、書写に移りたいと思います。ご意

見をお願いいたします。古澤委員、お願いします。

古澤委員　書写ということですのでけれども、各教科書会社の編集の流れを子どもたちの発達段階でもってどのようにされているかというふうなところを少し意図して見させていただきました。

書写については、書字の入門期から、社会で活用される多様な表現活動につながるような部分も含めて、国語科という中で系統的に学習されていくというふうを考えています。各者、そういう姿勢が見られるというふうには思っています。そして、入門期の扱い、書くときの姿勢や用具の持ち方、それから、高学年へ向けて、実際の文字の組立や配列、そして、毛筆の扱いなど、系統的に編集されているという部分については、指導要領の趣旨を踏まえたものとなっているという部分で、甲乙つけがたいというのが印象です。

ただ、その中で少し整理をしてみますと、まず、目次等、編集のレイアウトの工夫、また、各ページの編集に工夫があるなというふうに関心、そして、その中でどんなふうに関心して学んでいくかという見通しを持ちやすいというふうに関心したのは、三省堂や日本文教出版でした。

次に、硬筆を含め、1・2年生は硬筆が中心ですが、基礎基本の扱い、もちろん姿勢も含めてですけれども、そういうところが随分丁寧だなという部分では、東京書籍、学校図書に感じました。毛筆についてということですが、3年生以上になりますが、毛筆の特徴、そして、その毛筆がどう動いていくかというようなことが各者わかりやすく工夫して展示されていると思いましたが、見やすさということ、それから、国語科としての教科の国語のほうの教材の関連、それから、他の教科、学習の発表ですとか、

ポスターづくりとか、縦書き、横書きも含めて、そういう部分でバランスよく配置されているなという点では、光村図書出版、教育出版がいいのではないかというふうに感じました。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。佐藤委員、お願いします。

佐藤委員           本市の子どもたちにとってということで見ました。全者見比べましたが、光村図書出版がそれぞれの学年で基礎基本が子どもたちにわかりやすく、そして、指導しやすい内容であると感じました。例えば3年生から毛筆が始まりますが、筆の動きが墨の濃淡を使ったり、図を使ったりして、子どもたちにわかりやすく、見やすく示されています。本市の子どもたちにとっては理解しやすく、意欲を高める上でも使いやすい内容であると感じました。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。入澤委員、お願いします。

入澤委員           自分が使った書写の教科書を思い出すと、ただお手本の字が書いてあるだけの教科書で、それに比べると、どこも本当にいろいろ工夫がされているなというふうにいつも思っているところなのですけれども。

そんな中で、光村図書出版と学校図書は、全身の写真をすごく意図的に使っているなという感じがありまして、よい姿勢というのをすごく意識させる、それも視覚的に意識させる、理解させるという、そういう工夫がされているな

という気がしました。体の成長も著しい時期ですので、常に正しい姿勢を意識させるということが大事であるのはもちろんですが、ほかの学習場面でも応用できるような、そういうものだなというふうに感じました。

加えて、光村図書出版の教科書は、1年、2年に、最初に声を出して姿勢を確認するというページがありまして、これはおもしろいなというふうに、構成の意図というのですかね、そういうものをすごく感じました。

それから、同じく光村図書出版なのですけれども、毛筆と硬筆の関連をかなり意図的に用意してあるなというところで、小筆で書いたものと、それを生かしてすぐに硬筆を使わせてみるというようなところで、字を書くということについては共通する部分があるので、その辺も、基本的にこういうところに気をつけたほうが良いという、指導しやすい構成になっているなということが印象的でした。

委員長           ほかにございますでしょうか。

それでは、ご意見がないようですので、書写を終えまして、社会に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。清水委員、お願いします。

清水良委員   社会科の教科書について考えを少し述べさせていただきたいと思います。

なお、社会科の教科書につきましては、4者から5種類の教科書が発行されております。藤沢市の子どもたちとの関連性の中から意見を述べさせてもらいたいと思います。

まず、日本文教出版についてです。日本文教出版からは、2種類の教科書が発行されております。最初に、日本文教出版の「小学社会」についてですけれども、話し合い活動を重視した構成になっております。子どもたちのコミュニケ

ーション能力の育成という視点は、藤沢市の子どもたちにも大変求められている視点だなどと考えております。

続いて、同じく日本文教出版の「小学生の社会」ですけれども、たくさんのイラストなどの教材を通して、習得、活用、探求力が身につくように編集されております。問題解決能力の育成というところは、藤沢市の子どもたちにとっても大変必要なことなのではないかと考えました。

続いて、東京書籍の「新しい社会」ですけれども、社会生活を送る上で必要な基礎的、基本的な知識や技能の確実な習得を意図して編集されておりました。社会という教科に限らず、基礎基本の定着を図るということはとても大切なことであると考えております。

続いて、教育出版の「小学社会」についてですけれども、子どもたちの住んでいる地域の特性を踏まえて選択して学ぶことができる構成になっておりました。とりわけ、3・4年生では、横浜を題材として大きく取り上げ、藤沢市の子どもたちにも身近に感じられるような内容になっております。

最後に、光村図書出版の「小学生の社会」についてですけれども、生きる力としての社会的思考力や判断力を育てることを十二分に意図して編集されておりました。また、扱う題材も、教育出版と同様に、横浜や箱根を取り上げて、本市の子どもたちにとってもなじみやすいものになっているなど思いました。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。西新屋委員、お願いします。

西新屋委員       社会科は、地域社会や人々の社会生活について学習す

ることを通して、公民的資質の基礎を養うことをねらいとして  
います。日本の国土や歴史、地域など、具体的に調べる活動  
を通して学習を進める教科です。児童が主体的に学習に  
取り組めるよう、各者ともに工夫がされていると思いま  
した。

東京書籍は、単元の始めに学習の進め方があります。  
「つかむ」「調べる」「まとめる・いかす」という学習の  
流れがわかるようになっていました。導入で扱われるよう  
に設定されたイラストは、児童の学習に有効に働いていま  
す。6年上の教科書では、縄文時代と弥生時代の暮らしの  
様子が丁寧なイラストで書かれ、児童は見比べることで、  
課題を持って学習を進めることができます。写真や表やグ  
ラフなどの資料もわかりやすく、学習の手引になるように  
配置されていると思いました。

教育出版も同様です。学年オリエンテーションや「学び  
のてびき」を通して、問題を見つける、予想したり調べた  
りする、確かめ、考える、伝え合う、最後に、広げ、深め  
るといふ、問題解決的な学習のやり方がわかるようになって  
います。具体的なところでは、児童の資料活用能力の育  
成のために、写真、グラフ、表、年表などの資料が、こち  
らも効果的に位置づけられていました。読み取り方のヒ  
ントもあるので、考える力を身につけることができるよう  
に工夫されています。先ほど清水委員からも横浜の話が出  
ておりましたが、3年の教科書には、藤沢市で学校を開いた  
小笠原東陽が取り上げられています。藤沢の子どもたちが  
興味関心を持って学習に臨めるのではないかなと思いま  
した。

以上です。

委員長

ほかにございますでしょうか。佐藤委員、お願いしま

す。

佐藤委員 学び方を知ることが生きていく上での力となり、豊かな人生にしていくことができると思います。各者ともそうした配慮がされて、工夫されたコーナーを設けています。

教育出版の「学びのてびき」、東京書籍の「まなび方コーナー」、日本文教出版の「小学社会」の「学び方・調べ方コーナー」、「小学生の社会」の「学び方教室」、光村図書出版の「学びナビ」、それぞれに工夫があって、活動の方法や手順がわかりやすく示してあります。特に教育出版は、資料を読み解く着眼点の例示があって、考える力を身につけるための工夫が見られるように思いました。

以上です。

委員長 ほかにございますでしょうか。升委員、お願いします。

升委員 どの教科書も、それぞれに編集意図が明確に見られ、構成・分量、表記・表現においてもよいと感じました。どの教科も同じだと思いますが、社会は、自ら課題を持って解決していくといった教科の一つであると思います。

教育出版は、自ら学習計画を立てられ、興味、関心を持って学習ができるものと感じました。そのほかにも、具体的な資料の提示がされ、国土、歴史への理解等、藤沢でも具体的に活用されるものと感じました。

日本文教出版は、学習のめあてがあり、何を学習するのかがわかりやすく表記、表現されていて、よいと感じました。

東京書籍は、社会科の基礎、基本的な学習が系統的であり、子どもたちには学習の進め方がわかりやすい構成、表現になっていて、よいと感じました。



以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。古澤委員、お願いします。

古澤委員           社会科、編集の趣旨というふうな部分で、どの教科書もそれに向けた編集になっているというのは、これまでの委員の方も述べられたことだと思います。その中で、社会科を通してどんな学習を積み重ねていくかというふうなことを考えたときに、やはりバランスよく編集をしていただいているというのが一つ視点になるかなというふうなことを考えました。

確かに日本文教出版の「小学生の社会」、学習問題を提示するページ、そして、まとめのページというように、整理された単元構成というふうな工夫もありますし、光村図書出版の「わたしの書き込み欄」というような設定、実際に児童が自分の言葉でそこに表現するというスペースを持たせるとい、これは私も長い教員経験の中では、以前はなかったのかなというふうなことを思い、子どもたちがそこで意欲的に教科書と取り組めるという状況が生まれるのかなというふうに思いました。

また、教育出版の中では、情報処理の部分について、チェックシートという手法を導入されているというのも、児童にはわかりやすいというふうに思います。

教育出版で重ねて言わせていただければ、調べ学習へ向けた伝え合う活動という学習の方向性を持って教科書を編集され、子どもたちの自分たちの考えなり、意思をお互いに出し合うというところから社会というものをとらえていくという進め方になっているのかなと感じました。

以上です。

委員長           ほかにご意見ございますでしょうか。

では、社会を終えて地図に移りたいと思います。ご意見を  
をお願いいたします。西新屋委員、お願いします。

西新屋委員   地図帳は、児童が4年生から3年間にわたって、社会  
の時間を中心に調べ学習のときに使うものです。帝国書院  
も東京書籍も2者ともにA B判という大判が採用され、以  
前と比べて大きくなり、大変見やすくなっています。児童  
は4年生で47都道府県の位置と名称を覚えるために、日  
本地図全図が繰り返し掲載されている点に工夫が見られる  
と感じました。

帝国書院の地図帳は明るい色調で、文字がはっきりとし  
ていて、読み取りやすいです。地名がとても探しやすかつ  
たです。土地利用、土地の高さも色分けされ、地形の特色  
が立体的に感じられます。また、地図の中にさまざまな記  
号が使われていて、イラストも入っているので、児童が興  
味を持って地図を見ることができます。児童が地図を活用  
しながら自主的に学習できるよう、巻頭には、「地図のや  
くそくごと」、「地図帳の使い方」が取り上げられている  
のがよいと思いました。

東京書籍の地図帳は、読んでいて楽しいです。地図帳の  
サイドに「おくにじまん」や「地図のポケット」というコ  
ラムがあります。「おくにじまん」のイラストを見ては、  
地図上で地名を探したくなりました。「地図のポケット」  
を読むと、岡山県は桃太郎の話が生まれたところで、桃と  
きび団子が名産ということがわかり、物知りになった気分  
に子どもたちはきっとなるんだろうなと思いました。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。甘粕委員、お願いします。

甘粕委員           東京書籍では、「地図のなぞとき」という特設ページが始めに掲載されております。4年生の地域学習を進める中で、このページを活用しながら実践していく中で地図の活用能力が習得できると思われま

す。  
児童が地図を活用するための基本的な知識や技能が身につくための工夫は、2者ともに見られました。

以上です。

委員長           ほかにございますか。升委員、お願いします。

升委員           東京書籍、帝国書院、どちらもそれぞれに工夫があってよいと感じました。

東京書籍は、47の都道府県の特徴がワンポイントとして簡単に提示してあり、都道府県名の位置を関心を持って確認できるところがよいと感じました。

帝国書院は、統計資料が活用しやすく、地図が大きく見やすいといったところがよいと感じました。

以上です。

委員長           ほかにございますか。甘粕委員。

甘粕委員           地図帳はやはり調べたいことがすぐ見つけられるかどうかというところがとても大事だと思います。帝国書院の索引は、字がはっきりしていて、また、色分け文字の使用もあり、とても見やすく、引きやすいと感じました。そして、巻末の資料掲載ページの資料データが新しいので、調べ学習にも活用できると思われま

の堅牢さからも、帝国書院は丈夫な製本と表紙が網目でコーティングされておりまして、3年間の使用に耐え得ると感じました。この2点については、藤沢市の小学校用調査資料のほうでも同様の意見が述べられておりました。

委員長           ほかにご意見ございますでしょうか。

ないようですので、地図を終えて算数に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。伊藤委員、お願いします。

伊藤委員           児童の実態というか、藤沢市に限ったことではないと思うのですけれども、算数というものは一つ一つ積上げながら次の学習項目へと学びを進めていく教科です。子どもたちにしてみると、自分の力の進歩がよく見える教科なのですけれども、一つつまずくと次に進めずに、あつという間に取り残されてしまう、苦手だという気持ちを持ちやすいとも言えます。そこで、今回、教科書を見比べるということの中で、つまずいたときの既習事項の振り返りやすさという点で各者の教科書を私は見てみました。

いずれも単元のまとめの問題、章末問題とか、何だとかというところなのですけれども、これについては各者設問のわきに、本文のどこで基本的事項が扱われていたかというページ数が示されているのですけれども、その中でも東京書籍について申し上げますと、ページ数だけでなく、振り返る際のポイントとなるような用語がそこに添えられていたので、丁寧だなというふうに感じました。これは問題を解くのに必要な学習事項を自分自身でページを振り返って探し当てるといふときの助けにもなるので、効果的だなというふうに思ったところです。

それから、なかなか苦手意識の多い算数ということですが

から、いわゆる取っつきやすさということではどうかなというつもりで、導入のページを見てみました。そうすると、どの出版者もそれぞれやはりここは工夫のしどころだというふうに感じましたけれども、そういう中で、東京書籍は、これから学習する内容に即した問いかけという性格がより強く出ていて、扉を見て、その後、児童の学習活動と結びつきやすいように感じました。

大日本図書では、主な章の導入のページに、児童の目を引きつけるようなイラスト、写真、それから、おやっと興味を持ちそうな問いかけが配置されています。学校図書では特に低学年で親しみやすさということへの配慮が強く感じたということがありました。

それから、導入ということではないのですが、少しでも楽しんで学ぶという点でいいなと思ったのは、啓林館です。巻末の切り取り教具なのですが、各学年のを見たところ、昔、つくるのが楽しみだった雑誌の付録に通じるような、そんなおもしろさを感じたものがありましたので、一応添えておきます。

以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。飯島委員、お願いいたします。

飯島委員           中学校で数学を長年教えていましたので、小学校の教科書を楽しみに見させていただきました。すべての教科書に共通して言えることとしては、1点目、教科書がワークブックとしての機能を兼ね備えているなというふうに感じました。グラフづけ、表などを直接教科書に書き込んで使えるということです。

それから、2つ目は、巻末に切り取って使えるよう、厚

紙で、先ほど伊藤委員がお話ししていただきましたけれども、教材がすべての教科書についていると、大変工夫されていて、算数的な活動が子どもたち、楽しくできるのではないかなというふうに感じました。

それから、各者の教科書ですけれども、子どもたちのノートづくり、今、大変話題になっていきますけれども、ノートづくりについての記載が大日本図書、日本文教出版にありました。

以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。清水委員、お願いします。

清水良委員       今回の各者の教科書全般に言えることなのですけれども、支援教育だとか、あるいは特別支援教育だとか、それから、個への視点が十分に配慮されていて、とてもすばらしいなと思いました。教科書もやっぱりいよいよこういう新しい時代なのかなという感じを持ちました。

数者ちょっとお話しさせていただきますけれども、東京書籍ですが、問題解決型の授業展開が有効であるという意図があり、子どもたちが他者の多様な表現からその考えを読み取って解釈し、互いに伝え合う活動の場面をつくっている。また、ゲーム的な要素を取り入れて子どもたちの意欲を引出す工夫をしているなと感じました。

2つ目ですが、大日本図書です。導入のページを工夫し、新たな学習へ発展的に進むことができるようにし、また、単元のタイトルなのですが、何々しようという表現を用いて、児童の学習意欲の向上を図っているなと感じました。

以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。岩野委員、お願いします。

岩野委員

私は、保護者の立場として、教科書の中で算数という教科書が家庭で開かれる回数が一番多い教科書だなというふうに感じておりますので、家庭の中で子どもたちが、これってどうだったっけと聞かれたときに、この教科書を使って、私ならどういうふうに答えるだろうと思いながら見させていただきました。

また、うちの子どもたちはみんな算数が苦手ですので、特に力を入れて見させていただいたのですが、全体的に図や絵がとても多いなというふうに思いました。

大日本図書なのですからけれども、色やレイアウトもすごく楽しく、子どもは楽しく学べるのではないかなと思いましたが、もう少し手順などを詳しく説明してくれていてもいいのかなというふうに思いました。

東京書籍は、全体的なバランスがとていいように思います。

教育出版は、図や絵がとて多いなという印象を受けました。

学校図書なのですが、問題数はそこそこ多いほうではないかなと思いましたが、1回わからなくなると、教科書だけで振り返って子どもが勉強するのはちょっと難しいのかなというふうに思いました。

啓林館ですが、なぜそうなるのかという考え方がとても詳しく書いてあって、わかりやすいと思いました。ただ、問題数はちょっと少ないのかなというふうに思いました。

日本文教出版は、イラストなどはシンプルでとてもよいと思いました。ほかの教科書よりもサイズも大きいので、特に低学年には見やすいと思います。家庭で子どもに聞かれたときも、勝手な保護者の思い込みのやり方ではなくて、教科書を見ながら説明しやすいというふうに感じま

した。

以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。落合委員、お願いします。

落合委員           私も、先ほど飯島委員が言われたように、算数はとてもきれいで、ワークブックのようになったというのが第一印象でした。また、ノートのとり方とかという例示もどの教科書にもありましたし、キャラクターとかトピックなどが多様されていて、工夫して作業や学習ができるようになっているなと感じました。

ただ、巻末にまとめとか自主教材が集約されているのですけれども、回答が載っているのですね。そういう記載が多くて、自分で学習して回答を確認するのか、回答から学ぶというのもあると思いますが、私などからすると、ちょっと懸念されるころでした。

また、付録も便利ということでしたが、使うのが1回だとすると、一番最初の授業でその教科書を使えばいいですけど、いつ使うのかによっては、一概に便利とは言えないのではないかと、こういうふうに私は感じました。

すべての発行者が1年生以外は全部上下分冊ということで、非常に量がふえたのだなと、こういうことを感じました。その中で、A B判だとか、見やすい表示、見開き1ページということで工夫されている教科書が多かったなと思います。

装丁だけでいうと、あけやすいというのでは、大日本図書が、網代とじというのですか、開きやすくて、何か作業するには非常に便利かなと思いました。

また、日本文教出版もA B判で、ガイドで見通しが立てやすく、既習内容は確かめポイントで確認するというよう



なことで、これも割と大きくてわかりやすいということだ  
と思いました。

他の教科書の特徴を私なりに感じたところで申し上げます  
と、啓林館というのはやはり伝統的に系統性に重きを置いて  
いるなど、しかし、その深める内容とか、次の学習準備  
などというのも非常に工夫している構成だと思いました。  
一斉学習からチャレンジ問題へと、また、個別の課題に応  
じた活用問題に発展していく、非常にきめ細かな系統性に  
富んだ構成でした。特にこの教科書は、6年巻末には、  
「地球と算数」という単元で、他教科との関連を考えさせ  
る教材などがありました。感想レポートなども例示されて  
おりました。この他教科との関連などというのが、県の調  
査書の53ページのところに載ってしまっていて、そこでも啓  
林館は他者に比べて、他教科と関連するページが多いのか  
など、こういうふうにしたことが実証されているようで  
ございます。

東京書籍は、いろいろな考えを持ち寄りながら表現を引  
出そうという工夫がありました。まず、自分の考えを表現  
できる、こういう言語活動を意図されていて、振り返り学  
習もあり、とても使いやすいのではないかと、こういうこ  
とを感じました。

大日本図書は、先ほども出ましたが、「～しよう」とい  
う表現で、児童の考えを同じように比較検討して解決を図  
るように工夫されていると思いました。作業的、体験的な  
活動から、意欲、関心を引出そうとする学校図書とは少し  
方向が違うのかなと思いました。

教育出版も家庭学習を考慮したキャラクターで、学びの  
サイクル学習というのを非常に意識してしまっていて、話し  
合いや発表を行うことから授業を始める、学習を始めるとい  
うことが、考えるということを非常に重視しているように感

じました。問題も非常に多く設けられていました。

県の調査書の52ページにも、スパイラル学習活動の数というのが比較されていましたが、ここにありますように、教育出版と啓林館は、突出して高学年でそういうものを多く意識しているのだなということを感じ、私もそういうふうに感じました。

ともかく、つまずきの多い学習だと思いますが、反面、問題が多いと今度は基本をどう説明するのか、同じ時間数の中でということが学校現場では課題だと思いますが、一概に問題が多いからいいということにはならないと思いますが、そういう繰り返す学習というのが新しい指導要領では訴えられている観点からすると、スパイラル学習ということは一つの評価になるのではないかと思います。

委員長           ほかにございますでしょうか。西新屋委員、お願いします。

西新屋委員       私は、教科書を各学年の児童に合っているかという点と、児童が主体的に学習できるかどうかという点で見ました。

東京書籍は、2年生以上には、自分で答え合わせができる、補充問題がついている点が児童の主体的な態度の育成に役立つと感じました。同様に、児童の実態に合った「おもしろ問題にチャレンジ」も、自分で答え合わせができる点がよいと思いました。

大日本図書は、児童が問題を解決するとき、絵を手がかりにしながら、具体的にどうやって考えたらよいか、イメージすることができます。単元ごとに練習コーナー、復習コーナーがついていて、自分自身で学習の達成の確認ができる点がよいと思います。

教育出版は、学んだことを使おうというコーナーが児童の実態に合っていると思います。夏休みの算数の自由研究のコーナーも、児童が実際に夏休みの自由研究の課題として取り組んでみたいものです。3年の上の教科書にあるお小遣い帳のつけ方も、ちょうどお小遣いをもらい始める児童の発達段階と合っていて、実際に役立つなという印象を受けました。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。飯島委員、お願いします。

飯島委員           新しい指導要領ですけれども、中学校の教材が小学校に随分おりてきているのですね。6年の教科書を調べてみると、中学校からおりてきたものに、反比例、縮図、拡大図、対称の図形、文字を使った式などが入ってきています。大変高度な内容の教科書になっているなというふうに感じました。

その中で、教育出版は、文字を使った式、東京書籍は、円の面積から6年生の授業がスタートしています。論理的な思考から授業がスタートしています。ほかは、対称な図形から始まっていて、直接的なとらえ方からスタートしていると、そういうことがわかりました。どちらがよいというよりも、それぞれの教科書の特色なのかなというふうに感じました。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。瀧澤委員、お願いします。

瀧澤委員 算数は苦手意識が持たれやすい教科なのですが、東京書籍は、身近な事実から問題場面や学習素材を選んでいました。子どもたちは身近に感じられると思います。文章が読みやすい位置で改行されていて、まとめは注目できるように枠で囲んでありました。

学校図書は、すべての学年で作業的、体験的な算数活動を載せてあり、学習内容の理解が深まるような工夫がされていました。レポートの書き方が出ていて、例えば、もし何々だったらのように、算数の場면을説明するのに必要な言葉を使い、わかったこと、気づきを伝える力がつく工夫がされていたと思いました。

以上です。

委員長 ほかにご意見ございますでしょうか。

では、ないようですので、算数を終えまして、理科に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 それでは、理科の教科書をすべて見たわけですがけれども、どの教科書も検定を通過しており、学習指導要領に基づいて工夫が凝らされていると思います。

中でも、大日本図書は、4年生から6年生が2分冊になっていて、取り扱いやすいなと思いました。また、理科の学び方という解説ページがあり、観察、実験を通して科学的な見方や考え方の育成を大切にしているなど、そのように感じました。

それから、東京書籍は、6年生で、飛び出る人体模型が取り上げられていて、児童の興味、関心を喚起し、学習効果を高める工夫が見られます。

また、地質にかかわる内容については、神奈川県のもので

ぞれの場所が取り上げられておりますけれども、大日本図書、啓林館、教育出版では、海中より隆起したがけの様子として、江の島の写真を掲載しております。子どもたちにとって身近な教材であり、親しみが持てるのではないかと思います。

委員長           ほかにいかがでしょうか。落合委員、お願いします。

落合委員           渡邊委員と同じで、1者だけ分冊に、大日本図書ですか、なっていましたけれども、すべての教科書が量がふえて大判化されている中で、やはり重くなってくるのですとか、それから、児童の持ち帰りとか考えると、一つの方法ではないかなと思いました。理科自体が分量もふえて厚くなってきましたし、考え方や知識を活用させる点は一緒だと思いますが、どの教科書もノートの例示ですとか、写真も豊かで、きれいなものが多くて、既習内容との系統、関連を扱っているという点では、随分と変わったなと、こういうふうに思いました。ただし、編集については、理科的な心情、態度に重点を置くか、それから、系統性に置くかで随分教科書の編集は違っているのかなというふうに感じました。

5者ありましたが、大日本図書は、変形版で、紙面が大きくて、豊富な資料掲載、分冊で薄く仕上げているという点は評価できると思いました。基礎の習得から自然への愛情を養うですとか、自主自立を養うという方針のもので、まとめ、「ふりかえろう」、ジャンプ等の案内は非常に適切だと思いました。実験もわかりやすく説明されていますし、環境面ということで、巻末のほうに植物インキですとか、抗菌コート、男女登場場面など、人権にも配慮した、また、開きやすい網代とじでということも趣意書等に書かれているところを見ますと、随分と配慮された教科書だな

と思いをしました。

また、東京書籍はグループ学習を基本にして、学習活動が大変わかりやすいと思いをしました。見開き1ページにまとまっている構成が児童にも作業するにも大変わかりやすく、便利だと思いをしました。また、ワイド判ですので、見開き写真や活動表示、さらに安全性を図るという配色はとてもわかりやすくて注意を高めると思いをしました。「思い出そう」、「調べよう」というところで、推論の能力の育成を図っている、こういうことも特色だと思いをしました。

逆に、学校図書のほうは、A B判の合冊ということで、系統性を重視している。「やってみよう」では、具体的に活動しやすいものが例示されていました。特にこの教科書の巻末まとめの実験器具の扱い方、これは大変便利だと思いをしました。全体の見通しが折込みにありまして、見通しがきく予想から観察、結果、考察、結論と、学習展開を例示してありまして、わかりやすいと思いをしました。

教育出版、自然に感動するということを重点にしているようで、自然、敬愛する心など、また、自ら学び、解決する力を目指すということが趣意書でも書かれておりましたし、そうした編集になっています。ものづくりを重視し、生活の中での知識や技能との関連事象の紹介も多かったように思います。グループ学習で考え、そして、確かめ、わかったと、こういう説明で、わかりやすい授業展開が例示されていました。

啓林館は、既習内容の参照が非常に容易にでき、巻末の資料が大変豊富でした。既習の内容については半裁の折込みとなっておりまして、まとめようコーナーで結果や考察が丁寧に説明されていました。また、裏表紙には保護者へのメッセージも載せてありました。植物インク、再生紙を使用したというようなことも環境に配慮した本としてうた

ってありました。

県の調査書の66ページによりますと、内容のところで、理科の実験を取り上げている数というのがありましたが、ここにはありませんが、信濃教育会出版が135、あとはどれも同じような数でありました。

また、「繰り返し学習させる内容の記述」というところでは、大日本図書、啓林館などが多く、東京書籍がそれに次ぐというような傾向があって、私もそのように感じたところでもあります。

また、神奈川県に関する資料の数は、合計で言うと大日本図書が11というふうに記載されておりまして、地域に関連のあることは子どもたちに興味、関心を呼ぶかなと、こういうふうに思いました。

また、68ページにあります写真の数は、数だけではなく、挿絵の数等を合わせれば、総体的にどれも写真が非常に豊かになっているなということを思い、これからの理科の時間がふえたとしても、子どもたちが興味、関心を高めてくれる教科書だなと感じました。

以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。甘粕委員、お願いします。

甘粕委員           子どもが楽しく学べ、実験、観察が好きになるという観点で見せていただきました。

今、落合委員のほうからもありましたけれども、東京書籍のほうは実物大の資料、そして、実験をしている様子が写真でダイナミックに取り上げられておりました。例えば5年生の物の体積と力では、楽しそうな子どもの実験中の活動が初めのページに大きく掲載されておりました。やはりこれからの実験に興味を持たせることができるのではない

かなと思われます。

大日本図書では、単元のまとめで「つくってみよう」「やってみよう」コーナーがあります。学んだ知識を活用し、最後に楽しく活動することによって学習の確実な習得への振り返りにつながると思いました。

1つ、児童の立場に立った教科書という視点では、どの教科書も積極的に学習が進められるような工夫が見られました。

大日本図書では、3年生の磁石の不思議を調べようの実験シール、4年生の夏と冬の星座観察シート、東京書籍では、6年生の飛び出る人体模型、教育出版では、4年生の星座早見盤、啓林館では、4年生の光る星座カードなどがありました。どちらの教科書の教材も、児童が興味を持って利用することにより、子どもたちの学習意欲が増して、楽しく、観察や実験ができるのではないのでしょうか。

委員長           ほかにいかがでしょうか。飯島委員、お願いします。

飯島委員           理科の教科書ですけれども、各者比較してみると、巻末のところにとっても工夫があるなというふうに感じました。

学校図書と東京書籍については、実験器具の使い方、記録の仕方、資料の集め方などが載っています。

大日本図書は、理科の学び方について扱っています。

教育出版については、「わくわくチャレンジ」というページがあり、発展的な課題をまとめて扱っています。また、藤沢の調査員の資料集にもありましたけれども、鉄腕アトムや、その家族のキャラクターが載っていて、大変親しみが持てました。

これも調査資料にありましたけれども、啓林館は地域資料集を巻末に載せていて、地域の特色を知るのに便利だな



と感じました。

あと、判型についてですけれども、実験しているときでも、教科書がとじないような横長の判型でつくられているものが学校図書、それから、東京書籍、大日本図書でした。以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。

それでは、ないようですので、理科を終えまして、生活に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。では、清水委員、お願いします。

清水良委員   生活科の歴史は、他の教科よりも短いということがあります。平成元年度の学習指導要領の改訂の際に新しく設置された教科で、今現在、1・2年生が勉強しているのですが、それ以前は、1・2年生でも社会科と理科を学習していたという経緯があります。

子どもたちとの関連の中でちょっと述べたいと思います。

まず、学校図書ですけれども、活動や体験の各場面における子どもたちの情意面での動きや心の成長を大切にしておりました。子どもたちにとって共感的に受けとめることのできる内容かなと感じます。

続いて、東京書籍ですけれども、具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めて、対象への親しみや愛着を育むことができるように、対象と繰り返してかかわる学習活動を豊富に取り入れております。子どもたちにとっても学習の質を高める構成になっているかなと感じました。

大日本図書ですけれども、児童が自分の生活空間の中で多様な人や社会、自然とのかかわりを深め、地域への愛着を持ち、生活習慣や技能が自然に体得できるように構成されております。子どもたちの学習の上ではとても自然な構

成かなと思います。

教育出版ですけれども、学習のポイントがすっきりしており、学習課題も明示されており、気づく力、心の育ちをサポートしようという意図が見えております。

光村図書出版ですけれども、活動のまとまりごとに単元を構成し、単元のねらいや活動の流れのポイントがつかみやすい構成がなされております。また、各地域の実態に合わせて、取り扱う時期が柔軟に対応できるように構成されております。

啓林館ですけれども、生活科で身につく力を明確に意識して、児童一人一人の思いや願いを大切にしている構成になっております。

最後に、日本文教出版です。子どもたちが多様な対象と出会って、かかわって、関心や意欲を高めながら追求していく過程で、生活や学習に必要な基礎、基本的な力を培って、なおかつ自信や自己肯定感を育むように構成されておりました。

以上です。

委員長 渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 各者とも、子どもの学習活動を支援する工夫がされていると思います。教科書のつくりから見ますと、学校図書、それから、光村図書出版は、見開き画面いっぱいの写真を多用し、非常にインパクトがあり、子どもの興味、関心を引出し、学習を高める工夫がされていると思います。

また、啓林館は、別冊として「せいかつめいじんブック」が用意され、子どもの学習活動を助ける上で有効だと、そのように思いました。

委員長           ほかにいかがでしょうか。入澤委員、お願いします。

入澤委員           学習指導要領との関連で言うと、どの教科書も、伝え合うということを中心に意識して取り入れられているなという印象でした。どこも四季ということがすごく丁寧に引き上げられていて、そこで生きる動植物というようなことがふんだんに写真等で紹介されているということで、子どもたちが開くときのわくわく感が伝わってくるような、そんな感じを受けました。

中でも、今、渡邊委員のお話の中にもあったのですけれども、学校図書と光村図書出版の紙面の構成ですとか、写真の使い方がとてもダイナミックだというのが印象的でした。教科書を開いたときに子どもがぐっと引きつけられるなというのを感じられました。

それから、大日本図書も、写真ですとか、イラストですとかが非常に親しみやすいものを使われていて、そういうものを上手に使った紙面構成になっているという感じがしました。透明シートがあつたりとか、縦半分のページがあつたりとか、ところどころに非常に細かい工夫がされているなという印象を受けました。

もう一つ、学校図書の裏表紙のところ、保護者に対してのねらいというのが明示されていたのですね。これは本当に生活に密着した勉強であるということを考えると、家へ帰ってから家族を巻き込んで勉強というか、いろいろなことを知っていくということの種まきみたいなものがそういうところにされているのかなということで、ちょっと印象的でした。

以上です。

委員長           ほかにございますでしょうか。瀧澤委員、お願いします

す。

瀧澤委員 生活科は、体験を通して気づきを大切にする教科だと思えます。

大日本図書は、親しみやすいキャラクターが問いかける楽しい仕組みになっていて、児童が誘発されるような工夫がされていました。

東京書籍では、幼児教育との連携、交流活動の充実により、幼少の円滑な接続を図っていました。約束の例を挙げることで、安全やマナーがわかりやすくまとめてあり、活動に生かしやすいなっていました。

光村図書出版は、子どもたちがやってみたいと活動への意欲につながるイラストや、写真が用いられていました。自ら考え、活動するきっかけとなる工夫がされていると思います。また、教師への授業のヒント、かかわり方が随所に挙げられていました。

委員長 ほかにご意見はいかがでしょうか。

それでは、ないようですので、生活を終えまして、音楽に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。佐藤委員、お願いいたします。

佐藤委員 3者とも、基礎基本の徹底が図られるような工夫がされていて、それぞれに学習の目標、それから、具体的な活動の手だてやポイントがわかりやすく示されています。

また、東京書籍では、指導要領に示された目標と内容が2学年共通なので、2年間の中で系統的に重点的な学習内容を扱っています。

教育出版では、学習の振り返りや学習の手助けとなるような資料へのリンクをマークを使ってわかりやすく示して

います。

教育芸術社は、主題による題材の設定となっていて、6年間を通して系統的かつスパイラルに深化できるようになっています。

どの教科書もそうですが、特に教育芸術社が、楽しみながら自然に学習内容を身につけることができる構成になっていると感じます。例えば3年生で初めて出てくるリコーダーの扱いが丁寧で、段階を踏まえ、着実に基礎、基本が身につけられるよう工夫されていると感じます。取り上げられている曲も、楽しみながら学習効果が得られるような選曲であると感じます。

伝統や文化に関する教育の充実という点では、3者とも日本の歌唱教材や鑑賞教材、世界の音楽が取り上げられていて、充実が図られています。

教育出版の折込みのページや、教育芸術社の裏表紙の内容が特に理解を促すようなものになっていると感じました。以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。伊藤委員、お願いします。

伊藤委員       私も今の佐藤委員と同じような視点で、同じようなことを感じたのですけれども、やはり鍵盤ハーモニカですか、3年生のリコーダーあたりで、私は教育出版が図解や写真による説明が最も丁寧だったかなというふうに感じました。

それから、各者とも、楽曲の歌い方や演奏の仕方についてページの中でアドバイスしているのですけれども、比較的具体的に指示されているなど感じたのは教育芸術社でした。

それから、とじ方について言うと、机の上に広げておく

の一番開きやすいなと感じたのも教育芸術社でしたけれども、ほかの2者についても、実際、ぎゅっと置いてみると、そんなに極端に開きにくいということはなかったようです。

以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。落合委員、お願いします。

落合委員           児童の実態とか地域性ということでお話しさせていただくと、東京書籍、教育出版、教育芸術社と3者あるのですが、教育出版と教育芸術社はA B判ということで、少し判が大きくなっていて、東京書籍はB判ということでした。判が大きいと写真も大きく、楽譜も大きくて、読みやすさに東京書籍も配慮されていますけれども、私は判の大きいほうがいいかなと、こういうふうに思いました。

教育出版は、心情的なものや、聞く、鑑賞するということを育むことを基本にしているように感じました。歌のめあても感覚的といいますか、写真や資料が豊富で、子どもたちの感性を育てようという、そういう紙面構成だったと思います。市の調査資料にもありますように、写真と歌詞のみで曲のイメージが膨らませる工夫が各学年にされているというようなこと、また、全学年共通教材が2曲ずつおさめられていまして、学校全体で同じ曲を楽しもうと、こういう構成になっています。そうしたことから、子どもたちが一緒になって音楽を楽しめるということが強くうたわれているのかなと思いました。

教育芸術社は、基礎基本の習得を目指すという趣意書にあるようなところで、題材配列もシリーズ化されていて、わかりやすいというふうに思いました。共通教材は「こころのうた」と表記して、歌詞の魅力も味わわせるように配

慮されました。基礎基本に重点を置いて、その後の発展につながる教材まで配置されている、こういう教育芸術社の趣旨であり、また、編集であったと感じました。

委員長           ほかにいかがでしょうか。ごさいませんようですので、音楽を終えまして、図画工作に移りたいと思います。ご意見をよろしくお願いいたします。それでは、甘粕委員、お願いいたします。

甘粕委員           図画工作の学習指導要領では、教科の目標及び内容構成がすべて2学年単位で示されております。

東京書籍は、弾力的指導を重視するという観点から、2学年の関連をよりはかりやすくするため、2学年合冊本として構成されております。児童の実態や学校の実情に合わせ、自由に題材を組みかえることができる点がいいと思います。

開隆堂は、題材が分野、領域ごとにたくさん載せられておりました。学習のねらい、活動の要素、使用教材を考慮してあり、年間を通して系統的、体系的に造形活動ができるよう、こちらは6分冊となっております。題材では、造形遊び、絵画、立体工作、鑑賞の領域が、低学年、中学年、高学年で発達段階を考えてバランスよく配列されておりました。

委員長           ほかにいかがですか。渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員           教科書のつくりから見ますと、各者とも子どもの活動や作品の鮮明できれいな写真が多用されています。中でも、開隆堂については、先ほど甘粕委員からもありましたけれども、子どもの作品が多く取り上げられていて、学習をイ

メージするのにとっても役立つのではないかと思います。

委員長           ほかにいかがでしょうか。古澤委員、お願いします。

古澤委員           私も児童の実際に教室で扱ったりするときにはどうかというふうなことで、その中身ですね、開隆堂、6分冊というふうなことで、今、渡邊委員からもありましたように、図版がかなり多く提示されています。児童のイメージを喚起するという上では効果的かなというふうに感じました。さらに、立体的な題材がかなり多く取り入れられているなということです。児童の実態、発達段階、その中で、立体的なイメージをどう膨らませてくかというのはこれからの生活の中でいろいろな場面でもって有効に活用されるような力をつけていってほしいなという部分では、立体的な視野を広げることが、開隆堂の教科書のほうに少し多く感じました。

                  以上です。

委員長           升委員、お願いします。

升委員           どの教科書も個性があって、構成面や分量面、それから、表記や表現の面において工夫がたくさん見られて、よいと感じました。その中で、開隆堂は、全体として市内小学生の作品展である、あすにのびる子ども展に近い作品が多く例示されていました。子どもたち一人一人が主体となって興味、関心を持って、効果的な表記、表現であるように感じました。子どもたちに豊かな情操を培うことができるのではないかと思います。学びやすい題材、取り組みやすい題材であると感じました。

                  以上です。



委員長           ほかにいかがでしょうか。甘粕委員、お願いします。

甘粕委員           新学習指導要領では、感性を働かせ、つくり出す喜びを味わうという目標があり、共通事項との関連では、形や色に注目させ、自分のイメージを大切に扱うとなっています。

                  日本文教出版では、児童がイメージしたことを表現するために、必要な材料や、技術の習得のために、わかりやすい解説が巻末にまとめてあり、安全性も考慮してある構成だなと思いました。

委員長           ほかにございますでしょうか。古澤委員、お願いします。

古澤委員           今、甘粕委員も言いましたけれども、図工科と申すと、やはりいろいろな道具を使うというふうな観点を忘れてはいけないというふうに思いますし、それをどう使いこなしていくかというのも、学年によって発達段階を踏まえた扱いをするという、そういう意味で、材料、用具、そういうことの扱い方が学年に応じてわかりやすく示されているのは、日本文教出版というふうに感じました。

委員長           ほかにいかがでしょうか。甘粕委員、お願いします。

甘粕委員           鑑賞の領域でちょっと気になったところがありましたので。

                  開隆堂は、巻頭のページに「小さな美術館」や「ゆめをかたちに」という発達段階に合わせた興味を引く作品が掲載されております。5・6年生の風神雷神図など、1ペー

ジ大で扱う鑑賞作品がとても迫力がありました。

あと、東京書籍の「みんなのびじゅつかん」では、自分たちの暮らしの中にも造形作品が多くあるということを紹介し、鑑賞の対象の幅を広げておりました。3・4年生のタイヤの跡、蚊とり線香や1・2年生の空の雲、山の雪、ショウガの形など、身近な造形物に視点を当て、興味や関心を持たせるよいきっかけになるのではないかなと思いました。

委員長           ほかにご意見ございますでしょうか。

ないようですので、図画工作を終えまして、家庭科に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。瀧澤委員、よろしくお願ひします。

瀧澤委員           2者とも、学習全体の見通しを立てることができるガイダンス的内容が始めに書かれていました。

開隆堂は、5年生になって初めて学ぶ教科のガイダンスが写真でわかりやすく確認でき、2年間の見通しも持てるようになっていました。学校行事や季節感に配慮した題材配列がされていまして、調理の基本として、ごはんとみそ汁の題材があります。これは5年の社会、理科で、イネの学習をする活動があり、学習のつながりや広がりを意識している印象がありました。季節感を出す題材としては、5年の「寒い季節を快適に」、6年の「暑い季節を快適に」という単元があります。住まいの工夫や衣服の働きを取り上げていました。

委員長           ほかにいかがでしょうか。それでは、飯島委員、よろしくお願ひします。

飯島委員 中学校では技術家庭の家庭科分野という形で学習を進めるわけですがけれども、男女一緒に調理実習をしたり、裁縫をしたり、保育の実習をしたり、家庭分野、とても楽しく勉強しています。

2者教科書がありましたけれども、家族団らんの写真がでかく載っていたり、それから、裁縫の仕方がわかりやすい手順で載っていたり、あるいは調理ですがけれども、レシピが載っていて、でき上がりの作品がとても食べてみたいというような感じで載っていて、2者ともすばらしい教科書だなというふうに思いました。

県の資料ですがけれども、108ページのところに、「家族や家庭生活の大切に気付くように配慮された箇所」とか、「家庭生活を工夫する内容を取り上げている箇所」とか、かなりな分量を家庭生活について記述や写真、イラストなどが載っているということがわかります。

なお、開隆堂ですがけれども、環境マーク、安全マーク、食育マークなどの学習マークがとても見やすく、子どもたちにとってわかりやすく学びやすい教科書だと感じました。

以上です。

委員長 ほかにいかがでしょうか。それでは、甘粕委員、お願いします。

甘粕委員 開隆堂のほうなのですがけれども、作品づくりの参考例が適当の分量であったなと思いました。やはり児童が作品づくりをするときに、たくさんあるとどうしても迷ってしまうというところがありますので、児童の選択を適切にできる、そして、指導者がそれを指導しやすい、その分量が適切であるのではないかなと思いました。

あと、藤沢市では、各校でISOに取り組んでおります。

ごみの分別を意識した教育活動を行っています。開隆堂は、調理実習後の生ごみの始末の工夫を、トライエコ生活というようなページで紹介してありまして、現在各校での教育活動とつながる内容になるのではないかなと思いました。また、エコ活動を実践している学校も数多くありますので、学習環境を意識させる内容も充実しているなと思いました。

委員長           ほかにいかがでしょうか。瀧澤委員、お願いします。

瀧澤委員           5年生になって、初めてミシンに触れる児童が多数いるので、東京書籍はミシンの拡大図が表記されていて、操作の確認がしやすいと思います。それにミシンの図もそのようなのですが、調理実習、布を用いた製作等の実習ページは横の流れで統一されていて、流れを見やすく工夫してありました。作業も安全に進められるように工夫がしてあるなと思いました。

委員長           ほかにございますでしょうか。

それでは、家庭を終えまして、保健に移りたいと思います。ご意見をお願いいたします。落合委員、よろしく願いします。

落合委員           この保健という教科書は、随分変わったなと、こういうふうな印象です。それは指導要領が大きく変わったということですが、3・4年で体の成長、5・6年生では心の成長というのが丁寧に取り上げられていて、健康な暮らし全般に、今まで以上に、安全ですとか、地域の課題ですとか、災害とか、防犯の学習が取り入れられていると思います。これはやっぱり新しくとると子どもは随分驚くのかなと、こういうふうに思います。特に体の成長というところ

ろで、今までの保健以上に、薄いのですけれども、新しい内容がたくさん領域にわたっているということがあるといのが私は印象に残りました。その分、薄いページの中で、また、指導時間が少ない中でやるために、写真とか、漫画やアニメの主人公が課題説明をする、また、課題を提示するというので、大体1時間の授業が両面開きということ、大変わかりやすく仕上げられていると思います。

その中で、大日本図書は、話合いの活動をした後、結果を記入する、点検チェック表などがありまして、表記が工夫されているなと思いました。

また、体の成長の項目につきましては、1者だけだと思いますが、折込みで児童への配慮がされているなど、こういうふうに思いました。キャラクターが説明して、豊富でわかりやすいということは先ほども申し上げましたが、成長に関する今の折込みの配慮等から、学習については割と簡単になっているかなと。反面、生活習慣病ですとか、喫煙、飲酒、薬物等は適切な扱いといたしますか、断り方まで含めて記載されていて、非常に丁寧な扱いだなと思いました。

また、心と体の関係が非常に密接に関連しているということ、3・4年、5・6年で扱っておりまして、これらは別の教科書会社ですが、学研教育みらいでも同じように丁寧に扱われているなと思いました。

光文書院はアニメが大変多くて親しみやすく、写真も大変豊富でした。健康習慣で、藤沢が進めています早寝早起朝ごはん運動なども紹介されていました。たばこでは、副流煙などを紹介してありました。また、災害に備えるための同じようなチェックコーナーも設けてありましたし、インターネットを使ったときの注意も扱ってありました。

東京書籍は、記号を使って、ページ下に、学習の振り返りや、その広げる課題などを記載して工夫されておりました。

た。ここも藤沢市が行っております安全マップですとか、「おひなくこ」とか、「いかのおすし」など、防犯等の標語、キャッチフレーズを紹介しました。本市が行っている現在の指導内容と関連する内容だと思いました。

また、東京書籍では、3・4年でも、犯罪被害者のお話から、5・6年の防犯意識へとつながっていく工夫もされているようでした。

文教社は、親しみやすいタッチで、キャラクターが活動を指示していきまして、実生活をチェックするという、そういう実践記入などがありまして、身近な活動がしやすくなっていると思いました。ここにもたばこを断るときにはどうしたらいいとか、そういうようなことが詳しく書かれていきまして、先ほどの大日本図書と同様に、神奈川県は早くから、副流煙によるたばこの害を禁止しているというところがございますので、子どもの身近な生活に関連するのかなと、こういうふうに思いました。

最後に、学研教育みらいですが、趣意書の中にヘルスプロモーションという考え方を基本にしているとありました。共生、共存、人権、個性尊重を重視したという編集方針でありまして、実生活の中で主体的活動が多くなるように例示されておりました。この学研教育みらいの教科書には、藤沢が進めている安全マップが、先ほどよりもより詳しく説明されていきまして、まさに藤沢市で今進んでいる安全マップの作成や、地域の防犯、こうしたものが上手に取り上げられて、指導が重なるなど、こういうふうに思いました。また、喫煙とか、飲酒、薬物などの注意もわかりやすく、歯の健康についても上手に記載されて、子どもに関心を持たせるものだと感じました。

いずれにしても、3・4年生の体の成長の記述は非常に特徴的でありまして、教師側がきちっとした教育計画、ま

たは子どもに配慮した指導をしていく必要があるように大きく変わったのだなど、こういうふうに感じました。

委員長           ほかにいかがでしょうか。清水委員、お願いします。

清水良委員   私も、落合委員同様、教科書全般、随分様変わりをしたなという、素朴な印象を持ちました。すべての教科書にわたって言えることなのですけれども、学習指導要領を的確に受けて、今の子どもたちが直面している体と心の問題、そして、事故防止などを適切に取り上げているというところがあるかなと思いました。また、どの教科書も将来を担う子どもたちの健全な成長に対して適切な配慮がなされているなという思いを強く感じました。

                  以上です。

委員長           ほかにいかがでしょうか。落合委員、お願いします。

落合委員       この保健の教科書は非常に様変わりして項目が広がったのですが、県の調査書の120ページのところに今日的な健康課題についての内容が取り上げられているということで、新型インフル、熱中症、AED、防犯、防災、たばこの煙、食中毒、ノロ、O157、エイズ、急性アルコール中毒と、これだけ多岐にわたる内容をやって盛り込まれているものです。ですから、こういうことで言うと、他教科との関連ですとか、他の授業や学校行事と関連させていかないと、保健の中だけではなかなか難しい内容かなと思いました。

                  そこで特徴的なことと言いますと、先ほど言ったたばこの煙につきましては、3者が扱っていて、私は神奈川県はそうしたものに先進的に取り組んでいると思いますので、

その3者については積極的な評価があるのかなと思いました。

また、AEDも全校に配置しておきまして、こういうものがあるということは、それぞれの学校で指示していますので、その2者については、藤沢市の実情に合った説明がされている、それから、先ほど言いましたように、防犯マップというものも本市で取り上げているということになりますと、そうしたものが授業と関連してくる、本市にふさわしい教科書かなと、こういうふうに思いました。

以上です。

委員長 保健につきましてございませんでしょうか。

そうしましたら、以上で11種目、すべての種目の審議は終了しましたけれども、つけ加え等、ほかにご意見、ございますでしょうか。落合委員、お願いします。

落合委員 先ほど生活科のところでは申し上げればよかったのですが、伝統的な遊びということが生活科以外でもあると思うのですが、ここに、どの教科書にも記載されているものに、本校で取り組んでいるものももちろんございますが、これなどはやっぱり教科書から学ぶだけではなく、実践的に行うとすると、例えば竹馬遊びですとか、剣玉ですとか、日常的に行われているようなものもありますが、お月見などということはこのあたりではどうなのでしょうとか、そういうことを感じました。伝統行事、伝統的な遊び、これは実態とどう関連するかということで、それぞれ各学校での取り組みや、地域の方々との交流、または学校行事等の関連があって、なかなか一律にこの教科書のように、あるからいいとか、難しい内容だなと思いました。これを教えるに当たっては、やはり実践的な地域の方々との交流ですと



か、ご支援をいただく中で、子どもたちに体験活動を多くして、豊かな日本の文化を伝えていく、そうしたことが必要なのかなというふうに思いました。

また、反面、生活科は、上の理科、社会につながっていくということから、栽培ですとか、観察ですとか、自然を感じるという活動がどの教科書も書いてありますけれども、必要なのかなと、この教科書を見ながら感じました。

委員長 今、戻りまして、生活科の中でのお話でしたけれども、このようなことでまだご意見がありましたら、どうぞここでお出してください。

それでは、ないようですので、以上で11種目すべての種目の審議が終わりました。ほかにご意見がないようですので、これでよろしいでしょうか。

それでは、議題1「平成23年度使用小学校教科用図書について」の審議はここまでとし、審議を終了いたします。

これで本日予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して委員の皆様、何かございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、次回の審議委員会は、7月16日、金曜日、午後1時30分から、この会場、職員会館第4・第5会議室でとありますが、この日程でよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 次回の議題は、平成23年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議と、平成23年度使用小学校教科用図書並びに平成23年度使

用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議結果について、答申となります。よろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 事務局から何かございますか。

事務局 特にございませぬ。

委員長 本日は、長時間にわたるご審議ありがとうございました。

これをもちまして、すべての審議を終了いたしましたので、第2回平成23年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。

どうもお疲れさまでした。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員